

朝日大学は、国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間的知性に富む人間の育成をめざします。

2013年の日本 がんばろう日本人

2013年度朝日大学の役職者並びに事業計画が、学校法人朝日大学理事会において選任・決定された。

「魅力ある大学、選ばれる大学」をめざし、宮田侑理事長のもと、大友克之学長をはじめとする新役職者、全教職員が一体となっての事業計画がスタートする。



タイ王国の大学生を迎えた「キズナ強化プロジェクト」の歓迎セレブション

HOT TOPICS



「建学の精神」に基づき 「魅力ある大学、選ばれる大学」をめざす

2013年度事業計画が決まる

2013年度の事業計画が、本年1月の理事会で決定された。

建学の精神「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして人類普遍の人間的知性に富む人間の育成」に基づき、次世代を担う若者の夢の実現に向け、教育の質の向上をはかり、社会の多様な変化に対応できる有為な人材の育成に全力で取り組むことで、朝日大学では次のとおり事業計画・予算の基本方針を挙げている。

| 基本方針 |

学生募集	奨学支援制度、体育会活動、充実した施設設備など、恵まれた修学環境の情報発信を積極的に行うこと
教育の質の向上	知識伝達型授業から、学生が主体的に問題解決に取り組む能動的学修への転換をはかること
国際交流	海外協定校との相互交流を推進し、国際社会で活躍する人材育成を行うこと
社会からの信頼	教育後援会、同窓会、高等学校、弁護士会、経済団体、歯科医師会等との緊密な連携強化に努めること
医療を通じた社会貢献	教育病院としての本学医療機関を通じ、地域の医療拠点として地域社会の健康維持・増進に尽力すること
資産運用	諸施策の確実な実行のため、長期的視点に立ち、安定的な収益の確保に努めること

「混迷を深める今だからこそ、教育の重要性が問われている」
教職員を前に2013年度事業計画の基本方針を述べる宮田脩理事長



また、この基本方針に基づき決定された事業計画（重点項目）は下記のとおりである。（事業計画の詳細についてはホームページで公開）

I 学生募集

II 教育の質の向上

III 就職対策

IV 地域社会との連携

V 活発な国際交流の堅持

VI 教育後援会・同窓会との連携

VII 施設・設備の充実

VIII 医療を通じた社会貢献

IX 堅実な資産運用等

X 広報活動の充実

教職員の資質向上が不可欠



大友学長らが講師を務める

教育職及び事務職の管理者を対象としたSD研修会が開催され、大友克之学長、菱田健治常務理事から「2013年度事業計画の概要」と「本学の現状分析」について詳細に解説された。

出席者たちは、建学の精神に基づきより一層の大学改革の推進と組織力強化をはかることが「魅力ある大学、選ばれる大学づくり」につながるものであるとの認識を深めた。

大学教員に求められる能力

また、経営学部では、東京工業大学名誉教授であり同大学の監事を

務める清水康敬氏を講師として招へいし、FD講演会を開催した。

清水氏からは、教員の教育力、グローバル能力、コンプライアンス能力、自己評価力など、今日の大学教員に求められている能力の開発について講演が行われた。



清水氏が「大学教員に求められる能力」を語る

教職員らは、大学の教員が備えるべき能力や学生を変容させる効果的な指導方法のあり方などを学んだ。

SD [staff development]

職員の意識改革、能力開発の実践的手法

FD [faculty development]

教員の教育力を高めるための実践的手法

新役職者決まる

今年3月の役職者の任期満了とともに、理事会において2013年度の新役職者等が選任(再任、任期中の役職者を含む)された。

「魅力ある大学づくり、選ばれる大学づくり」をめざし、大友克之学長、森下伊三

男副学長、倉知正和副学長を中心とした新執行部体制がスタートする。

新たに、法学部長に平田勇人教授、経営学部長に岩崎大介教授、歯学部長に磯崎篤則教授、図書館長には田村康夫歯学部教授が選任された。

学長	大友 克之
副学長	森下 伊三男
副学長	倉知 正和
学生部長(兼体育会会长)	山本 英弘
副学生部長	大野 正博
情報教育研究センター長	荒深 友良
情報教育研究副センター長	永原 國央
図書館長	板谷 雄二
法学部長(兼法学研究科長)	服部 德秀
副法学部長	田村 康夫
法制研究所長	平田 勇人
経営学部長	大野 正博
大学院経営学研究科長	磯崎 篤則
経営学科長	岩崎 大介
経営情報学科長	奥山 徹
ビジネス企画学科長	小畠 信史
産業情報研究所長	板谷 雄二
マーケティング研究所長	岩崎 大介
歯学部長(兼歯学研究科長)	大野 典子
附属病院長	中畑 千弘
附属病院副病院長	都尾 元宣
附属病院PDI岐阜歯科診療所長	式守 道夫
附属村上記念病院長	藤原 周
附属村上記念病院副病院長	藤原 周
口腔科学研究所長	大橋 宏重
歯科医学教育推進センター長	日下 義章
教職課程センター長	加藤 隆弘
留学生別科長	武田 則之
健康管理センター長	小島 孝雄
	郭 泰彦
	柏俣 正典
	倉知 正和
	小川 信幸
	丸山 和美
	塚原 隆司



新旧役職者が挨拶

海外大学との交流

「きずな」が生まれる

タイ王国の大学生ら31名が、日本政府が進める「アジア大洋州地域及び北米地域との青年交流(キズナ強化プロジェクト)」の一環として来日し、本学を訪問した。

タイ王国の大学生らは、東日本大震災の被災地「宮城県気仙沼市」での交流・復興支援活動に参加、穂積キャンパスでは「防災の地域連携や病院の防災体制」について熱心に学んだ。その後、本学学生も加わり6号館食堂で開催された歓迎レセプションでは、同国出身の留学生から朝日大学での留学体験が語られ、



タイ王国の大学生らとゲームや
タイ舞踊を楽しんだ

CLOSE UP

セイノーホールディングスと 产学連携協定を締結

朝日大学とセイノーホールディングス(株)による「产学連携活動に関する協定」締結の調印式が、穂積キャンパス理事長室で大塚委利セイノーホールディングス取締役と大友克之学長ら関係者が出席し行われた。



大塚取締役と大友学長が連携協定に調印

今回の協定は、セイノーホールディングス(株)と朝日大学とが、地域産業と大学教育の分野において連携協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することをめざし協定締結を行ったもの。

今春から連携活動が始動

協定に基づき今春から、「西濃運輸寄附講座」が授業科目(特殊講義I)として開講されるとともに、学生の就業意識向上をかるための講演会(授業科目:キャリア形成I・II)の開催、「グローバルロジスティクス」などの学問領域でのプロジェクト共同研究の推進、「インターンシップ」(授業科目として単位認定)による就業体験の受入れなど、様々なプロジェクトが展開されることとなる。

地域社会の発展と人材育成に寄与する観点に基づき、セイノーホールディングス(株)からは、連携協定にかかる授業の講師や専門家の派遣及び研究会の参加協力など、無償で提供実施されることとなる。

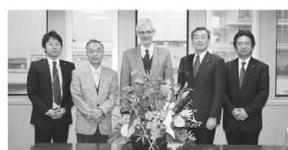
セイノーホールディングス(株)(本社:岐阜県大垣市田口町1番地)は、全国・世界規模でグローバルな事業展開を推し進める物流業界の最大手の地元優良企業である。

ゲームやタイ舞踊と一緒に楽しんだり、体育会相撲部や卓球部の部員を相手に初体験となる相撲や卓球に挑戦していた。

「きずな」が生まれた今回のプロジェクト、今後の国際社会における防災協力や相互理解などより一層深まることが期待される。

ドイツからの表敬訪問

また、穂積キャンパスでは、留学生別科日本語研修課程に留学生(昨秋に同課程修了)を送り出しているルートヴィヒスハーフェン経済大学東アジア



ルートヴィヒスハーフェン経済大学
からの表敬訪問

センターのフランク・レー・ヴェカンプ教授(経営学博士、同大学理事)の表敬訪問を受けた。同教授は、森下伊三男副学長や丸山和美留学生別科長ら本学関係者と、和やかな雰囲気のなか継続的な留学生派遣の方策や両国の高等教育事情などについて意見交換が行われた。

TOPICS



卒業生が語る教師の仕事

穂積キャンパス5号館講義室で、「教職課程特別講座」が開講された。

この講座は、教員を志し教職課程センターで学んでいる学生を対象に同センター主催で開催されたもので、本学で教員免許状を取得し教育現場で活躍している卒業生の教諭らが、後輩たちを前に「教師の魅力」や「教員採用試験合格への道」を熱く語った。

出席した学生たちは、先輩教師の話を聞き、ますます教師をめざす気持ちが強くなったようである。

講師の紹介

商業科教育と特別活動について 岐阜県立関商工高等学校教諭 洞口 哲二氏
(1995年度 経営学科卒業 硬式野球部OB)



先輩の教師たちが「教育現場」を語る

教員採用試験合格に向けて 岐阜県立長良特別支援学校教諭 伊藤 真一氏
(1999年度 法学科卒業 ポワリング部OB)

情報の教科担任として 岐阜県立可茂特別支援学校講師 新垣 朋洋氏
(2011年度 情報管理学科卒業 自転車競技部OB)

特別支援学校に勤務して 岐阜県立中濃特別支援学校講師 長間 巧氏
(2011年 法学科卒業 ラグビー部OB)

学習成果を「検定試験」で評価

法学部と経営学部では、「資格取得」を目標に様々な授業科目を開講し、積極的な指導を行っている。また、学生たちは11月下旬から2月上旬にかけて相次いで実施された「資格試験」合格をめざし真剣に取り組んでいた。

今回の試験結果の中では、「TOEIC」での高得点(790点)取得者や、難関とされる「宅地建物取引主任者試験」の合格者(5名)が輩出できたことは、これまでの各学部における教育成果のあらわれといえる。

新たな難関資格にチャレンジ

また、昨春に創部し高等学校や関係団体からも大きな注目を浴びている体育会会計研究部では、部員たちがみごと「税理士試験」に合格した。「簿記論」で3名、「財務諸表論」で4名の合格者を輩出した会計研究部では、今春の「公認会計士試験(短答式)」に向け新たな難関資格合格をめざし日々勉学に励んでいる。

学生たちは、来るべき国際未来社会での活躍を夢に、朝日大学で着実に実社会で必要となる能力を身に付けつつある。

就職活動本格スタート

大学生の就職環境がますます厳しさを増すなか、法学部・経営学部3年生の就職活動がいよいよ本格的に始まった。

本学では、就職支援の一環として就職活動を直前に控えた学生(3年生)を対象に、大垣フォーラムホテル(大垣市)において「面接合宿トレーニング(1泊2日)」を実施した。

ビデオで面接の様子を確認

同合宿では、地元企業の人事担当者を講師に招き、「自己分析・PR、志望動機の作成」から「模擬面接」まで、実践的で幅広い指導が2日間にわたり行われた。参加した学生たちは、就職戦線を目前に控え真剣な面持ちで講師のアドバイスに耳を傾け、それぞれが手応えを感じている様子であった。

積極的に自己アピール

また、2月には岐阜都ホテル(岐阜市)において「朝日大学2013就職セミナー」が開催された。



企業ブースで採用担当者と面談

このセミナーは、本学学生の採用実績が豊富な東海地区を中心とした企業を招いて行う本学独自の就職説明会で、毎年学生たちが自分を積極的に企業へ売り込む場となっている。参加企業は90社を超え、約250名のリクルート姿の本学学生が企業ブースに足を運び、採用担当者と面談した。

セミナー終了後の企業担当者からは、参加学生の意欲・熱意の高さに評価が集まり、入学時から取り組んできた就職活動に対する備えの成果が大いに感じられた「就職セミナー」となった。

経営学研究科の研究成果発信

穂積キャンパス6号館講義室において、大学院経営学研究科主催による「第6回公開講演会」が開催された。同講演会は、大学院経営学研究科の教員が日々取り組んでいる研究の成果を地域社会・産業界に広く発信し、地域貢献を果たすこと目的としている。

自分の地元に誇りをもつ



畦地教授が「地域の誇りを育てる」を解説

今回の公開講演会では、「地域の誇りを育てる—岩手県岩泉町を例として—」と題し畦地真太郎教授(知識経営学分野)が講師を務めた。畦地教授は、日本3大鍾乳洞の一つ「龍泉洞」で有名な岩手県岩泉町での実地調査・研究に基づき、「住民の地元に対する想いや誇りが強いほど地域が生き生きとし存在感を示している」と解説。

会場には、社会人や教職員・学生ら約150名が集い、地域活性化の方策や地域未来社会のあり方など熱心に学んだ。

法学部で「特別講義」開催

法学部では、各分野で専門的な知識を有する外部講師を招聘し、「特別講義」を開催している。

矯正教育の実状を学ぶ

大野正博教授がコーディネーターを務める「刑務所のいま」と題した講義では、岐阜刑務所専門官の高井健司氏と同刑務所外部講師の河合雅子氏から、刑務所内の実状や矯正教育の内容（刑務作業の内容や改善指導の狙い）など詳細に解説。講師らは「社会復帰した出所者が再び犯罪を起こさないために、刑務所での矯正教育が重要である」と語った。

受講学生からは、「受刑者個人が尊重されている矯正教育が良く理解できた」などの声が聞かれ、現代の刑務所に求められている社会的役割を学んだ。

薬物依存症者の社会復帰

また、薬物依存症を取り巻く様々な問題について考えようと、「薬物依存症者の回復に対する現状と課題」と題した講義が開講され、岐阜保護観察所所長の古川芳昭氏と岐阜ダルク代表の遠山香氏が講演を行った。



「特別講義」で外部講師から多様な知識を学んだ

講師らは、「薬物依存は病気としての認識が薄いのが現状。様々な機関が連携し患者や家族を支援して行く必要がある」と語った。

受講生たちは、薬物依存症者の社会復帰に向け社会全体で支援して行く必要性があることを学んだ。

入院患者へひざ掛けを贈る

村上記念病院では、寒さを迎えるこの時期に入院患者へひざ掛けを贈っている。

この行事は、毎年行っている催事で、本病院とかかわりのある森プリント（株）（本社：岐阜県羽島郡笠松町米野）社長の森典義氏、地元各織維会社の協力を得て寄付を受けたひざ掛けなどを入院患者一人ひとりへ贈った。

心のこもった贈り物

本病院の非常勤講師で、いちだクリニック（岐阜市清本町）院長の市



入院患者にひざ掛けを贈る

田正成先生や森社長らがサンタクロース姿に扮して病室を訪問。「元気になってください、お大事に」と患者さん一人ひとりに声をかけてひざ掛けを渡すと、患者さんは「心のこもったぬくもりをありがとう」と笑顔をほころばせていた。

オープンスクールを実施

岐阜県立岐阜商業高等学校、山県高等学校の生徒たちが、穂積キャンパスに相次いで来学しオープンスクールに参加した。

今回の訪問は、「高大連携授業」のひとつとして、また、高等学校における「体験学習」の授業の一環として生徒たちが、大学を訪問しているものである。

オープンスクールで大学生を体験

生徒たちは、講義室で「あの名探偵」も実は犯人者?」「これだけは知りたい調査の基本」などの講義を受講。また、DVDで大学で学ぶことの意義や学生生活の過ごし方などを視聴すると共に、模擬法廷、スポーツ施設、附属病院などのキャンパス見学を行った。



マーケティング研究所常川良史准教授から統計学を学ぶ

講義では真剣な表情でメモをとり、キャンパス見学での充実した学生アメニティーの数々に目を輝かせていた生徒たちは、「1日大学生」を朝日大学で体験した。

「聴覚障害者教育講演会」を開催

穂積キャンパス6号館講義室で、聴覚障害の子供の教育を考える教育講演会が開催された。

法学部と教職課程センターが主催するこの講演会は、障害児童が健常者とともに地域で育ち、地域で学び、地域社会に貢献していく「共生教育、共生社会」が実現できるようにとの趣旨で開催された。



Siegel氏がアメリカの共生教育を語る

共に生きる社会をめざして

基調報告では、全米ろう者教育プロジェクト創設者で、聴覚障害者の権利実現に取り組んでいる弁護士のLawrence Siegel氏から、「アメリカのインクルーシブ（共生）教育」の実状が報告された。会場に集った保護者や学生たちは、聴覚障害者の教育などについて「共生社会」の実現に向け熱心に学んだ。

今回、講師を務めたSiegel氏は、法学部教員らとともに「共に生きる社会をめざして—インクルーシブ教育を中心に—」をテーマに共同研究を行っている。

EVENT



入学前セミナーを開催

歯科医師への道がスタート

「歯学部入学前セミナー」が、穂積キャンパス及び大垣フォーラムホテルにおいて開催され、今春の入学を心待ちにした入学予定者が参加した。



活発なグループディスカッションが展開された(歯学部)

このセミナーは、歯学部の教育内容を事前に説明のうえ、入学時までの有意義な時間の過ごし方等をアドバイスすることを目的として毎年開催されているものである。

セミナー会場では、田村康夫歯学部長から「入学までの貴重な時間を将来の歯科医師という夢に向けた歩みの期間としてももらいたい」との挨拶がなされ、その後、磯崎篤則教務委員長、近藤信夫学生生活委員らからは、「教育方針、歯学教育の現状、歯科医師をめざす学生像」などの説明や、入学までの様々なアドバイスが行われた。グループディスカッション、チーターらとの座談会やボーリング大会では、教職員との交流もはかられ、参加者たちは、朝日大学での充実した学生生活に夢と希望をふくらませていた。

スタンプラリーで施設見学

また、経営学部経営情報学科でも「入学前セミナー」が穂積キャンパスで開催され、多くの入学予定者が参加した。

板谷雄二学科長らからの「学生生活ガイダンス」を受け、教員や在学生らとの昼食会で交流を深めた参加者たちは、スタンプラリーで学内施設を見学、iPadやパソコンを利用し模擬授業を受講したりと、経営情報学科での学びを体験した。

参加者からは「大学生活への不安が解消された」などの感想が寄せられ、有意義な「入学前セミナー」となった。

「学生選書ツアー」に参加



学生らが愛知県産業労働センター（ウインクあいち）で開催された「図書館のためのブックフェア2012」に参加し、「学生選書ツアー」を実施した。

「学生選書ツアー」とは、学生が図書館に備え付けでもらいたい本を直接選ぶという企画である。

参加学生は広い会場に驚いた様子ではあったが、さっそく本を手にとり真剣な表情で選書活動を行っていた。終了後には「自分が選書した本を早く読みたい、選書はとても楽しい体験だった」などの意見が寄せられ、本に対する親しみがより一層増したようであった。

今回選書された本は、図書館内「学生選書コーナー」で、「学生のおすすめコメント」とともに展示されることとなる。是非、学生たちの選書を一読願いたい。

「防犯ボランティアフォーラム」で活動報告

「全国防犯ボランティアフォーラム」が東京で開催（警視庁主催）され、学生防犯ボランティア団体「めぐる」のメンバーたちが、中部地区を代表し活動報告を行うとともに、全国各地の防犯ボランティア団体との交流をはかった。

地域社会への貢献

2004年に法学部学生を中心に結成された「めぐる」は、「散歩レンジャー」としてゴミ拾いやあいさつ運動をしながら大学周辺の防犯パトロールを行っている。また、瑞穂市内の小学校を訪問し、学生たち手作りの教材を使った「防犯教室」の開催や、「青色パトカー」で市職員らと通学路の見回りを行うなど、地域社会の子供たちの安全と防犯意識の向上や啓発にも努めている。

安全・安心な地域社会づくりに積極的に携わるメンバーたちは、「これからは、防災活動にも力を入れ、より良い地域社会づくりに貢献したい」と今後の抱負を語った。



JR岐阜駅周辺で「めぐる」が「ボランティア補導」を行う

「ベースボール・アカデミー」開催

岐阜県野球協議会が主催し、朝日大学が共催する公開講座「ぎふベースボール・アカデミー」が、穂積キャンパス6号館講義室で開催された。アカデミー開会にあたり元西濃運輸野球部監督・岐阜県野球協議会理事長の海老氏が「野球少年の栄養学」を解説後藤寿彦氏から挨拶があり、ボーイズリーグの選手や指導者、選手の父母たち約250名が参加し熱心に講演やトークに耳を傾けた。



今回の講座では、「ジュニア世代の野球指導」をメインテーマに、栄養学の専門家から「野球少年の栄養学」と題し選手の健康管理が解説されると共に、プロ野球の現役コーチからプロのトレーニング方法のエピソードをまじえ、「毎日、野球を楽しみながら練習を続けることが大切」などと野球指導法が熱く語られた。

講師の紹介

立命館大学スポーツ健康科学部教授 海老 久美子 氏

プロ野球中日ドラゴンズ打撃コーチ 同 2軍外野守備走塁コーチ

井上 一樹 氏
英智 氏

CLOSE UP

バレーボール 全日本監督が語る

自分、チーム、そして敵を知る

ロンドンオリンピック「悲願の銅メダル」獲得をはたした全日本女子バレーボールチーム監督の真鍋政義氏を講師に迎え、「自分を知り、チームを知り、敵を知る」と題した経営学会主催の講演会が穂積キャンパス6号館大講義室で開催された。



真鍋氏がコーチング哲学を語る

真鍋氏は、約650名をこえる学生や教職員を前に、同氏のコーチング哲学「やれる事はすべてやる、迷ったらやってみる」や日本バレーボール協会名誉顧問であった故松平康隆氏の言葉「非常識を常識にする」を詳細に解説し、オリンピックでのメダル獲得秘話を語った。

講師を務めた真鍋氏は、試合中iPadを片手に指示を出す「ITバレー」で有名な監督、昨夏のロンドンオリンピックでは、全日本女子バレーボールチームをみごと28年ぶりのメダル獲得に導いた立役者である。

ジュニアバレーボールクリニック

また、沖縄県宮古島では、全日本男子バレーボールチーム監督の植田辰哉氏を講師に迎え「ジュニアバレーボールクリニック&トークin宮古島」が、「朝日大学公開講座」として開催(共催:宮古島市教育委員会、後援:宮古バレーボール協会、特別協賛:大塚製薬(株))された。

今回の宮古島でのクリニックは、体育会バレーボール部監督の井上義浩が北京オリンピック植田ジャパンのスタッフを務めしたこと、世界ジュニア男子代表としてブラジル大会への出場経験を有する上地将貴選手(ビジネス企画3年)が沖縄県立伊良部高校出身であることから実現した。

植田氏は、小・中・高校生や父母ら約250名を前に、「一番大切なことは基本と基礎、規律を守り、具体的な目標設定をすれば結果は必ずついてくる」と語った。講演後には、バレーボール教室が開かれ、参考した児童・生徒や指導者らは、植田氏から熱のこもった指導を受けた。



植田氏は熱のこもった指導を行う



SPORTS

フェンシング JOCジュニア オリンピックで優勝

「JOCジュニアオリンピックカップフェンシング大会」が、駒沢オリンピック公園体育館(東京)で開催され、体育会フェンシング部の中野紗希(法1年:群馬)が「女子エペ個人」でみごと「優勝」の栄冠に輝いた。

同大会は20歳以下の全国トップレベルの選手たちが出場する大会。自身初となる日本一に輝いた中野選手は、この結果、日本代表選手としてタイ王国(バンコク)で開催される「アジアジュニア選手権」に出場することが決定した。

日本ジュニアを制した中野選手の世界での活躍が期待される。



「日本一」に輝く中野選手

剣道 朝日大学鍊成会

体育会剣道部の主催による「第11回朝日大学剣道鍊成会」が、大垣市武道館で開催され県内外強豪校の高校剣士たちが集った。

同鍊成会は、高校剣道の競技力向上と本学剣道部の活動を

県内外にアピールすることを目的として2003年から毎年開催されており、当日は約400名の高校剣士(県内8校、県外12校)らが参加。本学体育会剣道部の神山勝郎監督らによる指導の下「基本鍊成、試合鍊成、稽古会」に真剣に取り組んでいた。



全国から強豪剣士が集う

「心技体」を磨く

会場となった武道場には強豪剣士の交える剣音が鋭く響き、全国選抜大会を間近に控えた剣士たちにとって「鍊成会」は、技術・競技力向上の充実した一日となつた。

NEWS



沖縄をはじめ各地で教育懇談会

沖縄県出身者の在学生や新入生の父母を対象とした「朝日大学教育懇談会」が、沖縄都ホテル（那覇市）で開催され150名を超える参加者があった。

懇談会では、即戦力として実社会に旅立つことができる魅力ある教育内容、きめ細かな指導体制、充実した医療体制や施設設備がそれぞれ紹介された。説明を聞いた父母たちは、「沖縄とは気候などの違いはあるものの、学べる環境が整っており安心して子供を送り出すことができます」との声が多く聽かれた。



歯科医師の魅力を語る山内教授
(歯学部入試委員長)

「ビデオレター」を上映

懇談会場では、穂積キャンパス内で撮影された沖縄県出身学生のビデオレターが上映され、参加者たちは、岐阜の地で生き生きと大学生活を送る我が子の姿を確認していた。

また、同様の教育懇談会が大阪、金沢、福岡、熊本でも開催され、多くの父母たちが、熱心に学修環境の説明などに耳を傾けていた。

創立42周年記念植樹

朝日大学では、本年1月19日(土)で創立42周年を迎えた。

これを記念して、穂積キャンパス内のAUクラブハウス(南棟)東側にて「記念植樹」が行われた。

大友克之学長の挨拶の後、出席した教職員の手により本学が一層たくましく発展・成長することを祈り、記念樹の「クロガネモチ」が植樹された。



本学のさらなる発展・成長を願い、記念植樹を行った

防災訓練を実施

穂積キャンパスにおいて、瑞穂消防署の協力のもと「防災訓練」が実施され、教職員ら約70名が参加した。

「震度6強の大地震と火災の発生」を想定した今回の訓練では、地震に対する「安全確保、避難誘導、要救助者の救助」や火災時の「初期消火、延焼防止、非常用避難経路の確保、消防設備器具の取り扱い」など、実践的な訓練が行われた。参加者たちは、緊張しつつも皆真剣な表情で訓練に取り組み、近い将来発生の可能性が高いといわれている大規模地震等に対する心構えを新たにした。

次回は、学生や教員なども参加したより大規模で実践的な「防災訓練」が予定されている。



真剣な表情で「防災訓練」に取り組む

「2013年度学年暦」決まる

入学式を4月2日に挙行

法学部・経営学部

(注)日程等変更となる場合があります。

前学期の日程	行事等
3月29日～4月4日	ガイダンス期間(定期健康診断を含む。)
4月2日	入学式(春季)
4月4日	前学期授業開始
4月12日～16日	履修届・個別授業時間割表提出期間
4月18日	新入生学外研修
5月9日～13日	履修登録修正期間
7月24日	前学期授業終了
7月25日～8月1日	前学期定期試験期間
8月2日～9月18日	夏季休業期間
8月5日～13日	集中講義期間
8月20日	前学期定期試験合否結果発表日、前学期追・再試験手続日
8月27日～9月2日	前学期追・再試験期間
9月19日	卒業式(秋季)
9月20日	入学式(秋季)
9月21日	後学期授業開始
9月25日～27日	前学期成績通知表配付期間

法学部・経営学部では、授業日数の確保という観点から、2013年度は特定の祝祭日等(4月29日:昭和の日、7月15日:海の日、10月14日:体育の日、11月4日:文化の日の振り替え休日、11月23日:勤労感謝の日、12月23日:天皇誕生日)に授業を実施することとし、該当する祝祭日の振替休日として特定日(5月7・8日、10月16・17・18日、1月14日)を休日(授業を行わない。)とします。

なお、このことにより、休日の日数が減ることはあります。

歯学部 (6学年も3月29日に新年度開始)

(注)日程等変更となる場合があります。

前学期 の日程	行事等		
	1学年	2・3・4学年	5学年
3月29日		教務オリエンテーション、定期健康診断	教務オリエンテーション、定期健康診断
4月1日	定期健康診断		
4月2日	入学式、学生部オリエンテーション		
4月3日	教務オリエンテーション、アチーブメントテスト	前学期授業開始	
4月4日	前学期授業開始		
4月11・12日	新入生学外研修		
4月13日			登院式
7月20日	前学期授業終了	前学期授業終了	
7月22日	前学期定期試験開始	前学期定期試験開始	
~27日	前学期定期試験終了	前学期定期試験終了	
8月1日	夏季休業開始	夏季休業開始	
8月24日	夏季休業終了	夏季休業終了	
8月26日	前学期追・再試験開始	前学期追・再試験開始	
~31日	前学期追・再試験終了	前学期追・再試験終了	
9月2日	後学期授業開始	後学期授業開始	

歯学部での祝祭日等の対応については、従前(カレンダーどおり)のとおり取り扱うこととします。